

新しい新居浜 はじめよう！

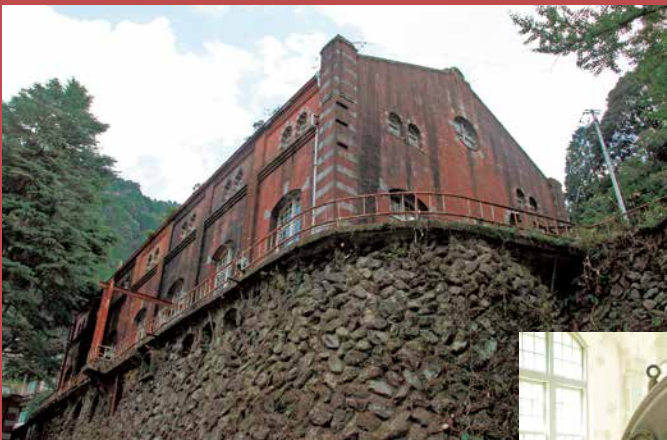
特集

別子銅山産業遺産



国登録有形文化財
旧端出場水力発電所（明治45年）

江戸時代の元禄4年（1691年）開坑から昭和48年（1973年）の閉山まで283年にわたる歴史を誇る別子銅山。標高1,300mの別子山中から本市沖合の瀬戸内海上にある四阪島まで、全長約40km間の壮大なスケールで、時空を超えて数多くの産業遺産が今も残っています。



明治期創業当時の発電機



建物内部

◆旧端出場水力発電所

新居浜市における別子銅山は、本市発展の歴史でもあります。

中でも、旧端出場水力発電所は、別子銅山の近代化に大いに貢献を果たしました。

明治45年に建設された意匠をこらした外観の建物は、明治から平成となった今日まで100年以上にわたり、その雄大な煉瓦造の姿を維持してきました。建物内には、創業当時のドイツのシーメンス・シュッケルト社製の発電機などの機械設備を当時のまま保存しています。

別子銅山近代化の象徴的な建物として、歴史的価値や意義とともに大切に後世へ受け継いでいきます。

◆主な歴史的意義

- ・吉野川水系の銅山川から約7kmにわたって鉱山用トンネルと水路を利用して導水
- ・当時東洋一の落差約597mを利用した発電
- ・優れた技術力の結集による大規模な建築・土木工事の成果
- ・大正11年当時 世界最長といわれた海底ケーブル敷設
(新居浜から四阪島まで約20kmの送電)
- ・端出場の稼働によって、鉱山業から派生した諸産業の発展に大きな役割を果たしたといえること



ドイツのシーメンス・シュッケルト社製



【東平地区】



◆旧第三変電所

明治 37 年、鉱業用等の電気の配電施設として建築されました。現在は、明治 42 年に再建された一部分の煉瓦建物が残っています。

※東平地区の一部は「東洋のマチュピチュ」と呼ばれ、多くの観光客が訪れています。



旧第三通洞（明治35年）

◆第三通洞

東平・日浦間を結ぶ通洞、長さは約 4,000m。昭和 13 年にはかご電車の運行も始まり一般の人にも利用されていました。



国指定重要文化財 旧広瀬家住宅

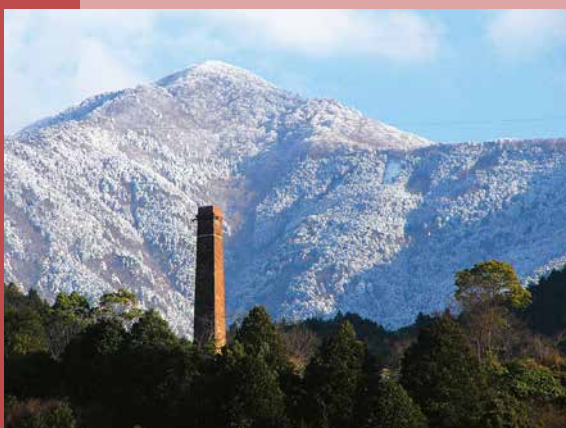
【山根・上原地区】

◆旧広瀬家住宅

母屋は明治 10 年建築。明治 20 年に現在地に移築。新座敷・庭園は明治 22 年に建築・造園されました。別子銅山を支えた実業家（広瀬幸平）の先駆的な近代和風住宅として、平成 15 年 5 月に国の重要文化財に指定されました。

◆旧山根製錬所煙突

明治 21 年、現在の別子銅山記念館周辺に山根製錬所が設置されました。煉瓦造の煙突の高さは約 20m。「えんとつ山」の愛称で親しまれています。



国登録有形文化財 旧山根製錬所煙突（明治21年）
撮影：塩崎 信好（平成25年度フォトコンテスト優秀賞）

【端出場地区】

◆国登録有形文化財 端出場鉄橋（明治 26 年）

別子鉱山鉄道下部線の開通時に完成。鉄橋はドイツ製でピン留め組立式のピントラス橋として、同種の鉄橋でも国内に数基しか残っていないといわれています。現在は、マイントピア別子端出場地区で観光鉄道として利用されています。



国登録有形文化財 端出場鉄橋（明治26年）

Hello!
NEW

新居浜